

科目区分	専門分野 I	授業科目	基礎看護学実習 I
講師名	実習担当者	実務経験の有無	全ての講師が経験有
単位数 (時間)	1 単位 (45 時間)	開講年次	1 年次 第 1・2 学期
<p>目的： 患者の観察やコミュニケーションにおいて、疾患を持ちながら療養生活を送る患者への理解を深める。患者のニーズに応じた看護を実践する基礎的能力を養う</p> <p>基礎 I－①</p> <p>目標： 1. 療養生活による環境の変化が患者に及ぼす影響について理解できる 2. 患者とのコミュニケーションや患者と看護師の関係について理解できる 3. 患者を尊重した態度で関わり、主体的に学習する姿勢を身につける</p> <p>基礎 I－②</p> <p>目標： 1. 患者の健康障害が患者・家族に及ぼす影響について理解できる 2. 疾患が患者に及ぼす影響をふまえ、患者の状態に応じた援助が実施できる 3. 相手を尊重する態度を身につける 4. 主体的に学習する姿勢を身につける</p>			
授 業 内 容			
<p>1. 基礎看護学実習 I－① (15 時間)</p> <p>1) 環境</p> <p>(1) 病棟と病室の構造と設備</p> <p>(2) 人的環境</p> <p>(3) 患者を取り巻く療養環境と日常生活状況の把握</p> <p>(4) 環境調整と日欧生活援助の必要性</p> <p>2) コミュニケーション</p> <p>(1) コミュニケーションの特性と構成要素</p> <p>(2) コミュニケーションの種類と影響因子</p> <p>(3) 効果的・非効果的コミュニケーション</p> <p>(4) コミュニケーションの重要性</p>		<p>2. 基礎看護学実習 I－② (30 時間)</p> <p>1) 患者の把握</p> <p>(1) 患者の発達段階と発達課題</p> <p>(2) 健康障害による症状と機能障害</p> <p>(3) 患者の療養生活状況と思い</p> <p>(4) 患者の入院前の生活習慣と生活環境の変化</p> <p>2) 日常生活援助技術の実施</p> <p>(1) 患者に適した目標設定と方法の選択</p> <p>(2) 実施前・中・後の観察</p> <p>(3) 安全性・安楽性・自立性の遵守</p> <p>(4) 準備から後片付けまでの責任をもった行動</p> <p>(5) 実施プロセスの評価</p> <p>(6) 評価に基づいた計画の修正・追加</p>	
<p>共通学習内容： 1. 報告・連絡・相談の徹底 2. 専門用語を用いて事実に基づいた記録 3. 患者及び家族を尊重した態度 4. 実習メンバーを尊重した態度 5. 情報の管理 6. 自主的な学習 7. 自己の健康管理 8. 約束の時間や提出物の期限の順守</p>			
授業方法	臨地実習	授業場所	岩国医療センター
評価方法	* 以下の内容を実習評価表 (100 点) に沿って評価を行う 患者理解・看護実践・実習態度・出席状況、実習レポート		
備 考	<p>関連科目で用いたテキストを活用する。実習要項で提示された事前学習をする。</p> <p>【関連科目】 看護学概論、基本技術 I、日常生活援助技術 I・II・III、生体機能管理技術</p>		